

資料提供	
令和3年10月13日	
担当課 (担当者)	とっとり弥生の王国推進課青谷上寺地遺跡整備室 (北・岡野)
電話	0857-85-5011

とっとり弥生の王国プレミアムシンポジウム 「続・倭人の真実 - 青谷上寺地遺跡に暮らした人々」を開催します！

鳥取県は、弥生時代の重要な遺跡として国史跡に指定されている青谷上寺地遺跡と妻木晚田遺跡の新たな魅力を創出し、活用するため、「とっとり弥生の王国」という枠組みのもとに遺跡の研究を深め、新たな情報発信に取り組んでいます。その一つが、2018年にスタートした青谷上寺地遺跡出土人骨を研究テーマとした国立歴史民俗博物館や国立科学博物館との共同研究です。

この度、その共同研究を通じて明らかになってきた人骨のDNAや年代に関する最新の研究成果を紹介するシンポジウムを開催します。また、弥生人の脳が見つかった頭蓋骨の研究をもとに制作した復顔模型を初披露します。つきましては、事前の情報発信や当日の取材について、御協力をお願いします。

1 開催日時 令和3年10月30日（土） 13：00～16：40

2 開催場所 とりぎん文化会館小ホール（鳥取市尚徳町101-5）

3 会場定員 200人（入場無料。要申込） ※オンラインによる同時配信を実施

4 申込期限 10月22日（金）

5 内容

考古学と人類学のコラボレーションにより明らかになった最新の研究成果を紹介し、パネルディスカッションで議論を深めます。

講演1 藤尾慎一郎（国立歴史民俗博物館教授）「弥生時代研究の変革—ヤボネシアゲノムと考古学—」

講演2 篠田謙一（国立科学博物館館長）「青谷上寺地遺跡出土人骨から何が見えてきたのか」

講演3 濱田竜彦（とっとり弥生の王国推進課）「青谷上寺地遺跡出土人骨の時代背景—弥生時代後期の鳥取地域—」

パネルディスカッション「倭人の真実」 パネリスト：藤尾慎一郎・篠田謙一・濱田竜彦、
コーディネーター：清家章（岡山大学大学院教授）

6 申込・問合せ先

とっとり弥生の王国推進課青谷上寺地遺跡整備室

〒689-0592 鳥取市青谷町青谷667（鳥取市青谷町総合支所2階）

電話 0857-85-5011、ファクシミリ 0857-85-5012、電子メール tottori-yayoi@pref.tottori.lg.jp

7 復顔模型について

○復顔の対象となった人骨

8頭蓋：弥生時代後期（約1800年前）の溝から出土した大量の人骨のうちの一つで、成人男性の頭蓋骨。最も大きな脳が残っていた個体であり、DNAの保存状態も最も良かった。

○監修

国立科学博物館

（監修者：人類研究部人類史研究グループ長 坂上和弘氏）



復顔の元になった第8頭蓋



復顔模型の後ろ姿